opusdei.org

四旬節、復活祭への 道(5)

償いにおいて、私たちの心構 えはとても大切ですが、主導 権を握るのは神です。そして 秘跡を通して私たちはその神 の救いの業にあずかります。

2025/04/01

これまでの記事を読む

秘跡を通して回心の道を歩む

罪との日々の戦いにおいて、ゆるし の秘跡と聖体祭儀は、特別な恵みの ときです。私たちの内的償いは、告 解によってより完成されたものにな ります。償いにおいて、私たちの心 構えはとても大切ですが、主導権を 握るのは神であり、神が私たちを回 心へと導くのです。「神の傑作」[1] であるこの秘跡を通して、神が私た ちの堕落した自由をどのように治療 してくれるかを感じとることができ ます。私たちができることについ て、聖ホセマリアは具体的なアドバ イスをくれます。「私は皆に、痛悔 の祈りをたくさん唱えるという信心 をもつことを勧めます。そして、ゆ るしの秘跡に対する特別な愛を持つ ことは、その信心の実践的かつ外的 な表われです!図。「ゆるしの秘跡 においてこそ、あなたと私はイエ ス・キリストご自身を着、その功徳 を身にまとうのであるしょる。

四旬節は、この「ゆるしの秘跡に対する特別な愛」を育む絶好の機会です。この秘跡を大切にすること、その素晴らしさを多くの人に伝えることは、その愛の表われです。

司祭は、神の名によってゆるしを与 えた後、秘跡の終わりに次のような 美しい祈りを唱えることができま す。「私たちの主イエス・キリスト の受難、幸いなおとめマリアとすべ ての聖人の執り成しによって、あな たの行うあらゆる善と耐える悪が、 あなたの罪の償い、さらなる恵み、 永遠の命という報いになりますよう に。平和のうちに行きなさい 国。 この古から伝わる祈りによって、司 祭は秘跡の実りが信者の生涯全体に 及ぶように神に願います。この祈り が示すようにその効果は、キリスト のご受難とご復活から来るもので す。

放蕩息子のたとえ話のように、父なる神の抱擁を受けた後、私たちと体でとれたでという。清い心と体で見いるすがれることは、なって変しない。の感を保ちるではいい。緊急を手にする大数にとさいう緊急を手にするを変きたない。変きだとなって変もというない。まを受けない。ない」では、ない」では、は、ない」では、ない」では、ない」では、ない」では、ない」では、ない」では、ない」では、私たちによった。

典礼を通して、教会は私たちが四旬節の道を〈優雅に〉歩むよう招いています。秘跡を頻繁に受け、神の言葉を熱心に黙想し、償いに努めると同時に、喜びを生きます。四旬節第四主日はこのことを特に強調し、

「神の民よ、喜べ」」「Mと呼びかけます。これらの業の実践は私たちの魂の感度を高め、聖週間に向けて心を整えてくれます。そして聖週間において私たちは、地上におけるイエスの生涯の頂点であるご受難とご復活

を新たに体験するのです。「キリス トの生涯と死去はわたしたちの営む 生活そのものになるべきである。キ リストが神の愛ゆえにわたしたちの なかで生きてくださるように、犠牲 と償いのうちに死ななければならな い。そこで、主に協力して全人類を 贖いたいとの強い望みをもち、キリ ストの御跡に従うのである上っる私 たちのために命を捧げる主を仰ぎ見 ながら、罪からの清めを味わい、神 がもたらしてくれる救いの喜びを再 発見することができるでしょう。神 よ、「御救いの喜びを再びわたしに 味わわせ | すてください。

<u>[1]</u> カトリック教会のカテキズム、 1116番。

[2] 聖ホセマリア、説教メモ、1970 年4月26日(J. López y E. Burkhart, Vida cotidiana y santidad en la enseñanza de San Josemaría, Rialp, Madrid 2013, vol. III, p. 377) 。

[3] 聖ホセマリア『道』310番。

[4] 「Passio Domini nostri lesu Christi, intercessio beatae Mariae Virginis et omnium Sanctorum, quidquid boni feceris et mali sustinueris, sint tibi in remedium peccatorum, augmentum gratiae et praemium vitae aeternae. Vade in pace」(Ordo Paenitentiae [1974]、93番)。

- [5] ルカ15・22-44参照。
- [6] 聖ホセマリア『鍛』438番。
- [7] 四旬節第四主日、入祭唱(イザヤ66·10参照)。
- [8] 聖ホセマリア『十字架の道行』 第十四留。
- [9] 詩編50(51)・14。

Alfonso Berlanga

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shijyunsetsu-fukkatsusai-michi5/(2025/12/16)